

カリキュラム

機 構 施 設 名：奈良職業能力開発促進センター
 実 施 機 関 名：株式会社メビウス

(D)データ活用	データベースソフト活用	データベースを活用したデータ処理(応用編)
----------	-------------	-----------------------

コースのねらい	業務の効率化を目指し、データベースソフトの機能であるデータ間の関係性を利用した処理や目的にあったデータの抽出・更新処理、ユーザの入出力画面の作成方法を習得する。
---------	--

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)	
講 義 内 容	1	リレーションシップと参照整合性	(1)リレーションシップ ・リレーションシップとはなにか。 (2)参照整合性 ・参照整合性とはなにかを知る。 (3)リレーション/参照整合性の設定 ・リレーションシップ・参照整合性の設定方法を知る。 (4)参照整合性の確認 ・参照整合性を設定したうえで、それによってデータベース上発生する制約を実際に確認する。	1.0
	2	クエリの活用	(1)アクションクエリ ・選択クエリとアクションクエリの違いを理解する。 (2)更新クエリ ・使用例を通じて更新クエリの利用場面や、予想される利用場面を考察し、更新クエリの動作を確認する。 (3)テーブル作成クエリ ・使用例を通じてテーブル作成クエリの利用場面や、予想される利用場面を考察し、テーブル作成クエリの動作を確認する。 (4)削除/追加クエリ ・使用例を通じて削除/追加クエリの利用場面や、予想される利用場面を考察し、削除/追加クエリの動作を確認する。	2.0
	3	フォームの活用	(1)コントロールの種類 ・データの取り扱いを誰にでも、容易にできるようにするインターフェイスとしての役割を理解し、構成する部品(コントロール)を配置し、作成する。 (2)メインフォーム/サブフォーム ・複数のフォームを組み合わせたフォームの作成方法を学ぶ。 (3)組み込み関数 ・フォーム上で利用できる関数や、その使用例について学ぶ。	3.0
	合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント
大量データ処理に活用するデータベース(基本編)コースに相当する内容を理解していることを前提に、データベースユーザが利用するインタフェースであるフォームについて学ぶことを主目的とする。また、データを加工させることのできるアクションクエリの意味を理解し、データの整合性を守る機能などを身に着け、データベース活用の幅を広げることを目的とする。